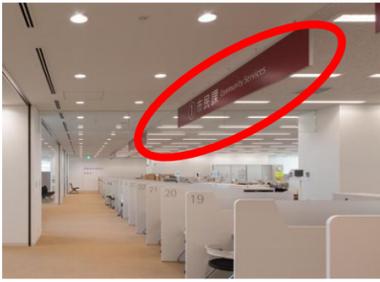
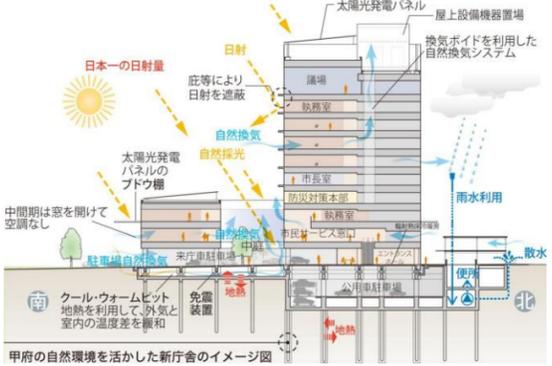


新庁舎の使い方について

項目		新庁舎の使い方 (新庁舎の整備の方向性)	具体的な取り組み例	留意事項	
II 通常業務の遂行性の確保	① 利便性	<ul style="list-style-type: none"> ○本庁舎の業務がワンストップで対応できるような庁舎 ○多様な利用者に配慮した庁舎 ○利用者のアクセスに配慮した庁舎 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口利用の多い部署を集約し、低層部に配置する。(利用者の利便性が向上) ・窓口カウンターは、車いす利用者等にも使いやすく、プライバシーにも配慮する。(利用者の利便性が向上) ・ユニバーサルデザインの視点で、誰でも使いやすく、安全に利用できるよう配慮する。(利用者の利便性が向上) ・市民の利用できる広場や多目的スペース・イベントスペースの設置を検討する。(災害時における多目的スペースとしても活用) ・一般市民の利用を想定した食堂・喫茶スペースの配置を検討する。(食事時間以外は、打ち合わせスペースとしても活用) ・みなと公園へのアクセス性や国道及び市道からのアクセスに配慮した計画とする。(緊急車輛動線の円滑化) ・モノレール市役所前駅から直接つながる歩行者デッキを再整備する。(高潮/浸水時の避難場所としても活用) 	<p><窓口対応の多い部署の集中配置></p> 	<p>セキュリティへの配慮が必要</p> <p>利用しやすい配置場所の検討が必要</p>
	② 機能性	<ul style="list-style-type: none"> ○職員が働きやすく業務生産性の向上に配慮した庁舎 ○スペースの効率性に配慮した庁舎 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が働きやすく、明るく開放的な執務環境を整備する。(業務生産性の向上) ・ICT化の導入なども含め、機能的で生産性の高い執務環境を整備する。(業務生産性の向上) ・執務スペースは整形な平面形状とする。(スペースの効率性の向上) 	<p><大きくわかりやすいサインの設置></p> 	
	③ 環境先進性	<ul style="list-style-type: none"> ○自然エネルギーの活用など環境負荷を抑えた庁舎 ○環境配慮において、モデルとなるような庁舎 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然採光、自然換気、雨水利用等の自然エネルギーを利用する。(災害時のインフラ途絶対策としても活用) ・再生可能エネルギー等の利用を検討する。(災害時のインフラ途絶対策としても活用) ・中圧ガスを利用したコージェネレーションシステムの導入を検討する。(災害時のインフラ途絶対策としても活用) ・環境性能の評価を行うなど、環境負荷への低減及び環境に配慮した建築物とする。 	<p><自然エネルギーの活用></p> 	
	④ 防犯性	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報等の漏洩を防止するため、セキュリティラインに配慮した庁舎 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物利用者の特性や動線に応じたセキュリティラインを設定する。(個人情報等の漏洩防止) ・来庁者、職員、議員等の立ち入り区画や動線の分離に配慮する。(個人情報等の漏洩防止) 	<p><セキュリティラインの設定></p>  <p style="text-align: right;">整備事例 (甲府市役所)</p>	